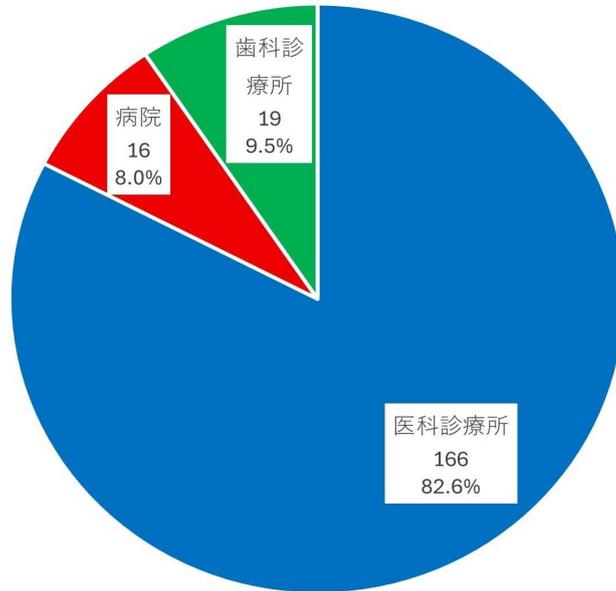


OTC類似薬の 保険適用除外緊急 アンケート

長崎県保険医協会

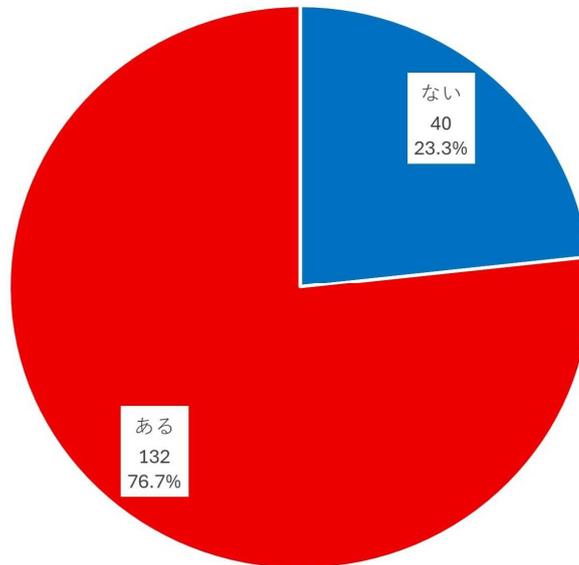
実 施 2025年6月16日(月)
~23日(月)
方 法 開業医会員(1,220人)へ
FAX送信
(医科:771人、歯科:449人)
回 収 201人・16.5%
医科(182人:23.61%)
歯科(19人:4.2%)

医療形態



感冒様症状の患者を診察する診療科に対する質問

感冒様症状で来院し、感冒以外の重篤な疾患だった経験がありますか

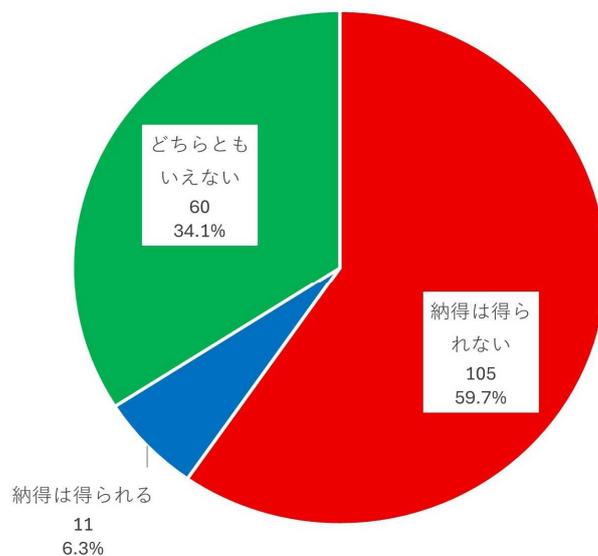


感冒以外の重篤な疾患の経験

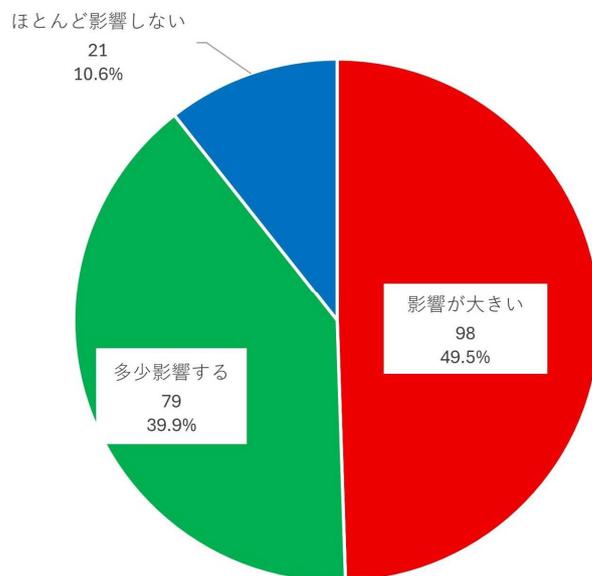
- | | | |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・肺炎 ・喉頭蓋炎 ・急性喉頭蓋炎 ・腎盂腎炎 ・心不全 ・白血病 ・喘息 ・肺炎 ・胸水 ・新型コロナ・インフルエンザ ・副鼻腔炎 ・スティーブン・ジョンソン症候群 ・肺胞出血 ・扁桃周囲膿瘍 ・気管支炎 ・急性肝炎 ・心筋炎 ・髄膜炎 ・百日咳 ・日本紅斑熱 | <ul style="list-style-type: none"> ・胆嚢炎 ・肺癌 ・気管支喘息 ・感染性心内膜炎 ・尿路感染症 ・肝膿瘍 ・川崎病 ・敗血症／菌血症 ・腎盂腎炎 ・肺腫瘍 ・肝機能障害 ・クモ膜下出血 ・急性化膿扁桃炎 ・血液のがん ・亜急性甲状腺炎 ・ウイルス性髄膜炎 ・成人発症スチル病 ・伝染性単核球症 | <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん ・ファイファー症候群 ・I型糖尿病 ・腫瘍熱 ・麻疹、風疹、おたふくかぜ ・喉頭浮腫 ・気胸、無気肺 ・結核、非結核性抗酸菌症、肺塞栓 ・急性腎炎 ・扁桃腺炎 ・敗血症性ショック、細菌性肺炎、虫垂炎 ・熱中症 ・喉頭浮腫 ・心筋炎 ・重症熱性血小板減少症候群、紅斑熱 ・光垂炎、憩室炎 ・腸閉塞 ・エイズ、カリニー肺炎 |
|--|---|---|

湿布(例:ロキソニンNa テープ)を処方する診療 科に対する質問

湿布が保険適応外となった場合、患者の
納得が得られると思いますか



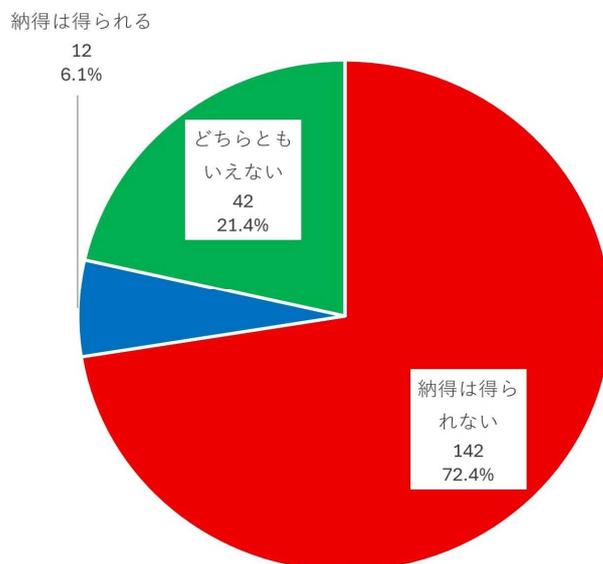
医療経営に及ぼす影響は大きいと思いますか



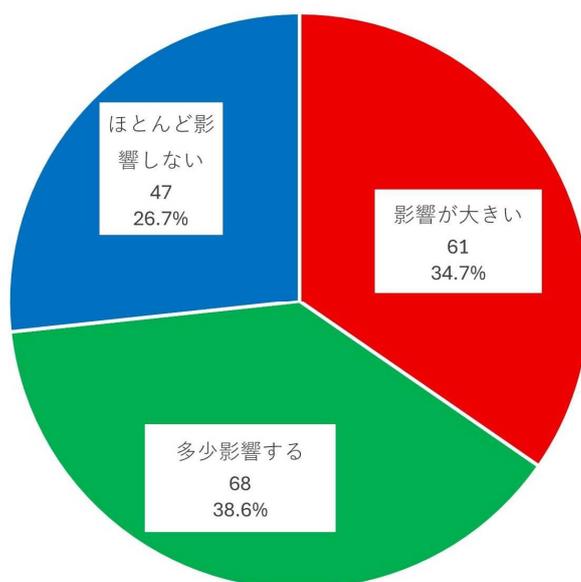
以下のOTC類似薬を処方する診療科に対する質問

例)ゾビラックス軟膏、ガナトン錠、マグミット錠、アレジオン錠、ムコダイン錠、ザジテン点眼液、ロキソニン

例)にあるOTC類似薬が保険適応外となった場合、患者の納得が得られると思いますか

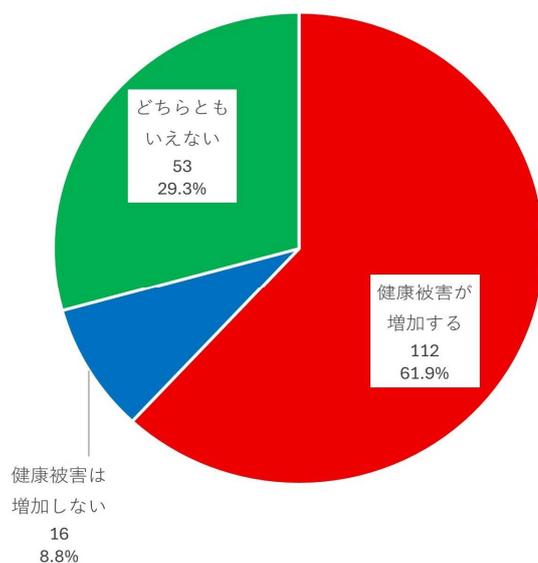


医療経営に及ぼす影響は大きいと思いますか



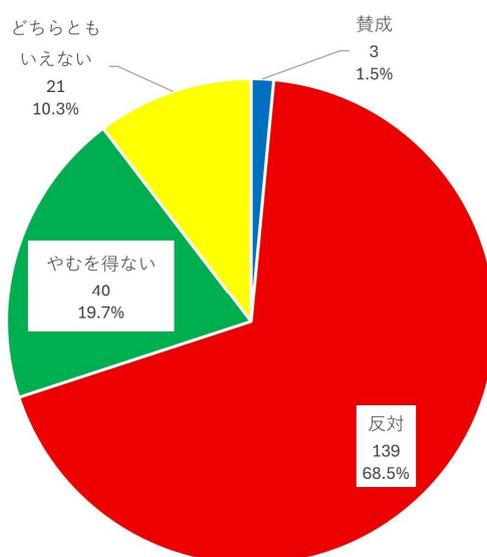
漢方薬を処方する診療科に対する質問

漢方薬が保険適応外となった場合、患者に健康被害が発生する可能性について



すべての診療科に対する質問

OTC類似薬を保険適応外とすることに対して



OTC類似薬を 保険適応外とすることに対する「反対」意見①

- ・保険外にすると患者が重症化してクリニックを受診するようになり、かえって医療保険財政が悪化する。
- ・患者の病状が悪化する可能性が高い。
- ・患者負担は大きくなり、きつくなる。自己判断と自己診断のみでドラッグストアの薬を服用することは危険。
- ・かぜ薬などOTC類似薬は高くて買えない人がいる。
- ・漢方薬でしか対応できない疾患や状態があり、「患者に対して長引く体調不良を強いることとなる。また感冒に使用する葛根湯や小青竜湯ですら使い方を間違えると健康被害が生じる可能性があり、OTC薬のみとすることは反対である。

OTC類似薬を 保険適応外とすることに対する「反対」意見②

- ・保険適応除外により、治療中断患者が必ず出現する。
- ・小児においては漢方薬が有効な場面が多いが、OTC薬とすると症状に対して不適切な内服をしてしまう可能性が高く、むしろ悪化させてしまう。
- ・漢方薬のOTC化を推し進めることには反対である。
- ・漢方薬を処方できないと適切な治療ができない。多種の西洋薬を処方することになり、かえって医療費が上がる懸念がある。安い漢方薬は抗生剤の替わりになる。
- ・薬剤が保険適用外になれば、患者の生活に多大な影響を与えると考えられる。
- ・湿疹やじんま疹では抗アレルギー剤を使用する疾病である。自費で購入すると患者さんはその使い方を全く知らない。

OTC類似薬を 保険適応外とすることに対する「反対」意見③

- ・医療機関にとって、保険薬剤と保険外薬剤があると診療方針が複雑になります。
- ・プロトンポンプ阻害薬(PPI)のラベプラゾールがOTCになっても高いため医療機関で先発品を処方すれば医療費が上昇する。
- ・必要以上に、高額な新薬を使用することになるため医療費は今よりも高騰する。

OTC類似薬を 保険適応外とすることに対する「賛成」意見

- ・湿布や抗アレルギー薬は患者の無駄遣いや軽症での使用が減ってよいと思う。
- ・ある程度の有害事象の発生は仕方がないと思う。
- ・医療費が増大しているため、やむを得ないでしょう。
- ・湿布は全て保険適応外でいいと思います。抗アレルギー剤や去痰剤は、慢性の呼吸器疾患に必要なので、条件付きで除外してほしいです。
- ・薬剤の種類によって検討されるべきかと思います。
- ・自己負担の軽い人がやたらと薬をほしがるのを減らすのには役立つかもしれません

OTC類似薬を 保険適応外とすることに対する自由意見①

- ・現時点では判断できない。
- ・湿布は適応外で問題なし。他は同効代替薬が処方されるだけで、むしろ医療経済的には悪影響と思われる。経営にはあまり影響ないと思われる。
- ・説明を医療機関に丸投げにせず、国民の納得がほしい。
- ・保険診療の医療費抑制のためなら、高額な薬の薬価を下げる必要があるのでは？医療機械、ワクチン、アルコール等の必需品、みんな高いのに診療報酬は抑制されている。診療報酬を上げるためなら賛成するが。
- ・仮に保険適応外とする場合、患者への説明は医療機関からではなく国や保険側で十分に行っていたらいい。

OTC類似薬を 保険適応外とすることに対する自由意見

- ・現役世代のことしか考えない維新をどう国政からはずし発言力を低下させるか。この法案が通れば次々となしくずしにされるので、医師会はこの法案を完全に潰してほしい。
- ・理解はできますが具体的な代替案、代替薬を全て各個人が背負わないといけないのでしょうか。患者さんの意見にはできるだけ対応しますが、医師会や保険医協会からの具体案がほしいです。
- ・OTC類似薬で何を保険適応とし、何を保険適応外にするかの議論が必要。
- ・OTC類似薬を保険適応外とするよりも、まずは感冒症状で安易に(コンビニ感覚)受診しないようにキャンペーンを行う必要あり。
- ・OTC保険外にしにすれば、患者からの反抗はさげられない。

OTC類似薬を 保険適応外とすることに対する自由意見②

- ・当院は、院内処方だが全てを院外にすることになる。財政が厳しいのは分かるが、明らかに診療所をはじめ、病院潰しにきている感がある
- ・OTC類似薬を保険適応外にすると患者さんの負担もかなり大変と思われる。医療費負担軽減するのであれば整骨院を保険適応外にすべきと思います。
- ・診断した上で必要と判断した処方を行うのには医師として当然であり、「湿布をためこんでいる」「風邪位で受診するな」というのは次元が違うと思います。医療側に制限を加えるのではなく、国がしっかり国民にメッセージを発するべきだと思います。
- ・病める人が医療機関に通院することで国民の健康が保たれている。問題なのは、何カ所も医療機関へ行き、重複して薬や湿布などもらいストックしている人がいる(生活保護の方は負担がなく全て無料が問題)。マイナンバーで重複処方がないかを把握し、医療費削減に向けて国民への周知も必要と思われる。